

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

姉が家を出たのは、四月の初めだった。大学の近くで一人暮らしを始めるのだと、春休みのあいだじゅう、段ボールに本を詰めていた。

ぼくは手伝わなかった。手伝えば、本当に出ていってしまう気がしたからだ。

姉がいなくなった次の日、母が言った。「あの机、あんたが使いなさい。」姉の机は、ぼくの机より大きくて、引き出しが三つもある。前から少しうらやましかった。でも、ぼくは「いい」と答えた。自分の机で十分だと思ったし、なにより、姉の机に座るのは、姉がもう帰ってこないと思えるように、いやだった。

それから一週間、姉の部屋の前を通るたびに、ドアを少しだけ開けて中を見た。机の上には何もなかった。カーテンだけが、前と同じように風でゆれていた。

日曜日の午後、ぼくは数学の宿題を持って、姉の部屋に入った。理由はよくわからない。自分の部屋は弟がゲームをしていてうるさかった、というのは、あとから考えた言い訳だ。

いすに座ると、机の右のはしに、小さなきずがあるのに気づいた。カッターで引いたような、細い線だ。指でなぞると、少しへこんでいる。姉がいつつけたのか、ぼくは知らない。姉がここで何を考え、何に困っていたのかも、ぼくは何も知らないのだと思った。

宿題は、いつもより早く終わった。

夜、姉から母のスマホにメッセージが来た。「机、使ってる？」と書いてあった。母がぼくに画面を見せてた。ぼくは少し迷ってから、「きずがあった」とだけ返事を打った。

すぐに返事が来た。「それ、中一のとき。数学がわからなくてやった。」

ぼくは声を出して笑ってしまった。それから、机のきずをもう一度なぞった。今度は、へこみが少しだけあたたかい気がした。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「ぼくは手伝わなかった」とありますが、その理由を本文中から二十字以内で抜き出なさい。

本	当	に	出	て	い	っ	て	し	ま	う	気	が	し	た	か	ら			
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--

問二 ぼくが「いい」と答えた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 自分の机のほうが大きくて、使いやすかったから。

イ 姉の机を使うと、姉がもう帰ってこないと思えるように、いやだったから。

ウ 母に命令されるのが、気に入らなかったから。

エ 姉が机を持っていくと思っていたから。

イ

問三 「姉がここで何を考え、何に困っていたのかも、ぼくは何も知らないのだと思った」とありますが、ぼくがそう思うきっかけになったものは何ですか。本文中から十字以内で抜き出なさい。

小	さ	な	き	ず					
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

問四 「今度は、へこみが少しだけあたたかい気がした」とありますが、このときのぼくの気持ちを、四十字以内で説明しなさい。

り	姉	も	自	分	と	同	じ	よ	う	に	数	学	に	悩	ん	で	い	た	と	知	
姉	を	身	近	に	感	じ	て	う	れ	し	く	思	う	気	持	ち	。				

問五 この文章の表現について述べたものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 「ぼく」の視点から、姉に対する気持ちの変化を、机のきずを通して描いている。

イ 姉の視点から、家に残した弟を心配する気持ちを描いている。

ウ 会話を多く使って、家族全員の性格をくわしく説明している。

エ 季節の描写を中心に、一年間の出来事を順に描いている。

ア

【中I】国語 文章問題 物語文 I 答えと解説

問一（二十点） 答え：本当に出ていってしまう気がしたから （本当に出ていってしまう気がしたからだ でも正解）

解説：第二段落の「手伝え、本当に出ていってしまう気がしたからだ」が根拠。「～から」で終わる部分をそのまま抜き出す。

問二（二十点） 答え：イ

解説：第三段落の「なにより、姉の机に座るのは、姉がもう帰ってこないと認めるようで、いやだった」が根拠。アは本文と逆（姉の机のほうが大きい）。ウ・エは本文にない。

問三（二十点） 答え：小さなきず （机のきず でも正解）

解説：第六段落。机のはしのきずを指でなぞったことが、姉の知らない一面に気づくきっかけになっている。

問四（二十点） 答えの例：姉も自分と同じように数学に悩んでいたと知り、姉を身近に感じてうれしく思う気持ち。

解説：直前の「数学がわからなくてやった」という姉の返事と、「声を出して笑ってしまった」から読み取る。前の場面では「何も知らない」と感じていたきずが、姉とつながるものになっている。採点は上の二点。

採点のポイント：① 姉も自分と同じように（数学で）悩んでいたと知った ② 姉を身近に感じている・さみしさがやわらいだ（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点） 答え：ア

解説：語り手は「ぼく」で、きずが「何も知らない」しるしから「あたたかい」ものへ変わることで気持ちの変化を表している。イは視点が違う。ウ・エは本文の特徴と合わない。